

愛した品
「この一品」



週刊現

懐かしの
テレビCM
大集合



理研をクビになるだけでは済まされないらしい

急浮上! 小保方晴子「逮捕」の可能性

倒産寸
追い込
内幕レ
年取と差
徹底

7/5 定価420円
Weekly Gendai
2014
July

自
安
全国



大反響!
第2弾!
急増中

『知の巨人 荻生徂徠伝』

著者 佐藤雅美
角川書店 / 1900円

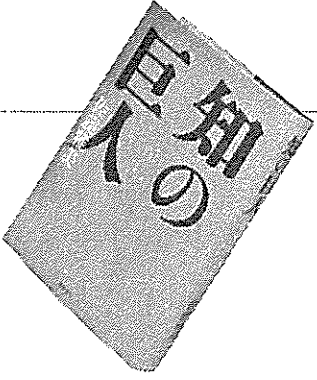
江戸時代最高の天才か、ライバルを憎む俗人か。日本を牽引した学者の人間性まで明かす小説

評者 山内昌之
明治大学特任教授

日本人のように、漢文と中国語の二通りの読み方で隣国の言語を学ぶ国民は珍しい。漢文式の読み下し文は一度日本人の頭脳を通過するので、中国人の思考の様式や特徴を忠実に理解したことになる。日本語の音による読み方を止めて、中国人と同じ発音で上から下へ読む方式を学問に取り入れた人物こそ、本書の主人公荻生徂徠なのだ。

佐藤雅美氏は、徂徠の父が將軍になる前の徳川綱吉の勘気に触れ浪人となったあたりから、徂徠が柳沢吉保の顧問となり、孔子や孟子など先哲の学問に戻る古文辞学の完成を図る顛末を小説として興味深く描く。

ことに、將軍吉宗に折に触れて出した意見書や政治学の古典「政談」の成立の背景を細やかに叙述する。



徂徠といえは、学者中の学者、天才中の天才といってもよいが、お人好しで素直な人間の側面が浮かび上がる。学説の対立する伊藤仁斎に虚心に出した手紙は、その息子、東涯に利用され、徂徠が屈服したかのように

文集に収められてしまう。古文辞学派が学問の主流になると信じていた徂徠は、誰かが邪魔しているから流行らないと思ひ込む。そして、その元凶を六代將軍家宣の政治顧問新井白石のせいだと憎む。彼を「文盲」と決めつけ、「政談」でも感

情的な批判を隠さない。徂徠には、天才的な学者と人間的な俗人ぶりが不思議なほど前向きに同居していたのだ。面倒見のよい徂徠の下に優秀な門人が集ったのも不思議はない。この事情も魅力的に素描される。網吉は欠点があっても、

徂徠が白石と違うのは、吉宗が一〇〇〇石ほどの直參旗本に取り立てようとしても辞退した点である。綱吉死後に失脚した柳沢吉保から五〇〇石の扶持を貰っているからだというのだ。このあたりの義理堅さや人間味をきちんと描いたこの徂徠伝を、日本政治学のルーツを知り、現実の日本政治の参考となる格好の書物として、多数の人びとに勧めたい。

学識にすぐれた將軍であり、徂徠の資質を認めていた。しかし、さして秀才があるとは思えぬ八代將軍吉宗が徂徠を評価したのも面白い。吉宗は、徂徠の「弁道」や「弁名」といった難解な書に取り組み、彼の学識を税金融政策などの行政に生かそうとする。

さとう?まさよし / 41年生まれ。
85年「大君の通貨」で新田次郎文学賞、94年「恵比寿屋喜兵衛手控え」で直木賞受賞。「信長」他